

こういき通信 第73号

矢部広域病院 広報委員会

平成30年 5月発行

編集担当：大城 美栄（外来）

興 侶 みき子（療養病棟）

平成29年度 第2回 看護研究発表会

平成30年3月14日

はじめに 高本総看護師長より



人口構造の変化による社会情勢の変化、医療・看護政策の変換の中で、当院の役割は大きくシフトしてきました。急性期・救急医療から後方支援へ、そして地域包括ケアにおける在宅療養支援病院へ。私たち看護職は、今、医療と介護を繋ぐ重要な役割を担い、看護機能の強化が求められています。

年頭、院長から、今年度の方針となる標語「僥倖（ぎょうこう）」が発表されました。看護部では、多職種との連携を一層深め、患者様・ご家族のニーズに対し「安心・安全」を提供する事で、私達が「幸せ」を感じ、当院の存在が患者さんにとっての「僥倖」になればと考えます。そのために、「前向きな姿勢のケア」に取り組み、一步前進する努力を日々重ねていきたいと思えます。

発表①

看護サービス向上の為の取り組み ～時間外患者対応の強化から1年を経過して～

一般病棟 看護師 寺崎 由香

一般病棟では、時間外受診時の対応の強化に伴い、受診される方がより安心して治療や看護を受けられる環境を整えるための取り組みについて発表しました。看護師に対しての意識調査から表出された意見を基に、手順書の作成と運用に取り組んだことで、患者さまに対してよりスムーズな対応ができるようになりました。発表会には看護師だけでなく、医師や薬剤師など多数の出席もあり、活発な意見交換が行われ、とても充実した研究発表会となりました。このような場を通しての学びを看護の質の向上に役立てられるよう、これからも努めていきたいと思いました。

発表②

終末期患者の看取りに関わって ～その人らしい終末期を迎えるために～

療養病棟 看護師 増田 尚美

療養病棟では、入院患者の高齢化に伴い『看取り』の患者さまも増えてきています。そこで、終末期を迎えた患者さまに、穏やかに過ごせる環境と希望に沿ったケアを提供しながら、患者さまの意志を尊重した最期を迎えて頂くために、スタッフ全員が同じ方向を目指し、看護やケアを行う為の方法を検討しました。発表を終え、慢性疾患の『看取り』には、その家族に寄り添った看護・ケアを提供する事が大切だと再確認することができました。今後も色々な面で心配り・思いやり・傾聴を忘れずケアを心掛けていきたいと思えます。

平成29年度 第2回 医療安全職員研修会

平成30年2月14日



今回の研修では、1.『医療機器の安全』、2.『カリウム製剤の投与について』の2部構成とし、第1部では、①医療機器の電気安全、②モニタのアラームと安全管理についての講義があり、感電することにより、医療機器だけでなく人にも影響を及ぼすことや、アースの役割やコンセントの使用・点検など分かりやすく教えて頂きました。安全とは「危なくないこと～危険を予知し、それに備えておくこと」であり、常に考えて、日々の業務を行うことが大切であることを学びました。



第2部では、カリウム製剤の投与量や投与方法を間違ふことで、不整脈や心停止などの重大な事象に繋がらないように、厚生労働省をはじめ、日本病院薬剤師会と日本看護協会協働で「カリウム製剤投与間違い撲滅キャンペーン」に取り組み、死亡事故「ゼロ」を目指していることを話されました。いずれも組織での取り組みが不可欠であり、今後も全職員が一丸となって、院内各部署、各職種と連携を図り、更なる安全性の向上に取り組んでいきます。文責：外来 看護師 本田 真理（医療事故防止委員会）



「時間が経つのを早く感じるのはなぜ？」 事務長 中西 政次

当院は、今年で創立84周年を迎えます。創立80周年記念祝賀会が昨日のこのように感じるの私だけでしょうか。今年の診療報酬改定が前回に続き2回連続の全体マイナス改定と環境が厳しくなる中、この3年半、病院全体として十分な取り組みができたのでしょうか。現在も、常勤医師数は十分とは言えず、人口減少問題や職員を含む高齢化問題など山間地の過疎地域特有の課題を抱えているからこそ、計画と実行という取り組みの繰り返しは重要です。



個人的には、これからの3～4年はもっと早く過ぎ去っていくような気がしています。目の前の業務に忙殺されるだけの日々を送っていき取り残されそうです。近い将来の病院像を描き、院長を中心に計画と実行、そして検証に時間を費やし、より充実したものになるように全員で頑張りましょう。

RKK女子駅伝に参加しました。

平成30年2月12日



当日、山都町の天気は大雪！そんな雪の中を6時過ぎに出発。8時前には熊本県総合運動公園に到着しました。いつもだったら400組程の参加があるところ、今年は340組程度と少なかったようでした。開会式の間も降り続ける雪に不安もありましたが、一般の部が始まる頃には雪も止み、青空が見え始めていました。当院は2チーム9名の参加で、皆ケガなく無事に完走することができました。順位は一般の部（315チーム中）270位と285位ではありましたが、楽しく走れました。参加された方、応援に来てくれた皆さん、本当にお疲れさまでした。文責：放射線科 フロアエイド 片山 雅美

新職員紹介



増田 修二（ますだ しゅうじ 看護部/一般病棟 看護師）

4月より矢部広域病院に就職しました。以前は菊陽町の老人保健施設で勤務をしていました。病院勤務は実に7年ぶりになり、分からない事もあるかと思いますがご指導の程をよろしくお願ひします。趣味は、スポーツ全般ですので気軽に誘ってください。これから地域貢献の為頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



佐々布 大志（ささう たいし リハビリテーション/理学療法士）

今年度よりリハビリテーション科に入職しました、佐々布大志（ささう たいし）です。3月に熊本市内の熊本駅前看護リハビリテーション学院を卒業したての元気いっぱい123歳です!! 社会人1年目で過度の緊張をしておりますが、笑顔を忘れず、矢部広域病院のスタッフとして誠心誠意頑張っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



吉村 春香（よしむら はるか 臨床工学科/臨床工学技士）

4月から臨床工学科に配属されました。もともとは一般の四年制の大学を卒業後、一度就職し、学校に入り直し、1年で臨床工学士の資格を取りました。熊本市東区に住んでいるため、現在、道を覚えながら通勤しています。まだお会いしていない方もいらっしゃると思いますが、病棟などに伺う際にご挨拶していきますので、これからよろしくお願い致します。